

高齢化が進む日本農業に対し、 私たちが今できることは何か。

九州ブロック連盟 宮崎県立宮崎農業高等学校

生産流通科 3年 宮原 春花

生物工学科 3年 島田 由佳

生産流通科 3年 畑中 結衣

1 はじめに

九州学校農業クラブ連盟は、福岡県 11 校、長崎県 5 校、佐賀県 5 校、熊本県 12 校、大分県 9 校、宮崎県 8 校、鹿児島県 9 校、沖縄県 8 校、クラブ員数 15, 028 名の全国でも大きいブロックです。

「九州は一つ」の合い言葉をもと

に、お互いに切磋琢磨しながら農業クラブ活動に取り組んでいます。

本年度の九州学校農業クラブ連盟事務局は宮崎県立宮崎農業高等学校が担当しています。本校は農業系 4 学科、家庭系 1 学科の 5 学科で構成されており、本年で創立 125 年になる宮崎県でも 2 番目に歴史にある高校になります。最近では意見発表や平板測量競技において全国大会にも出場しており、校内の農業クラブ活動も活発になっています。



2 九州学校農業クラブ連盟リーダー研修会

7月25日から27日にかけて九州8県の県連事務局と次年度事務局、次年度九連事務局が集まり、リーダー研修会を実施しました。

アイスブレイクで、名刺交換を行いリラックスした状態で各県自慢コンテストなどを行いました。分科会では、クラブ員代表者会議テーマのうち第2分科会と第3分科会のテーマについて各県の取り組みや考え、解決策などを話し合いました。「ワールドカフェ」形式で話し合うことで活発な討議ができました。

また、各県の交流事業にも工夫を凝らし、宮崎らしい風景を楽しみながら農業クラブのリーダーとしての活動を行いました。



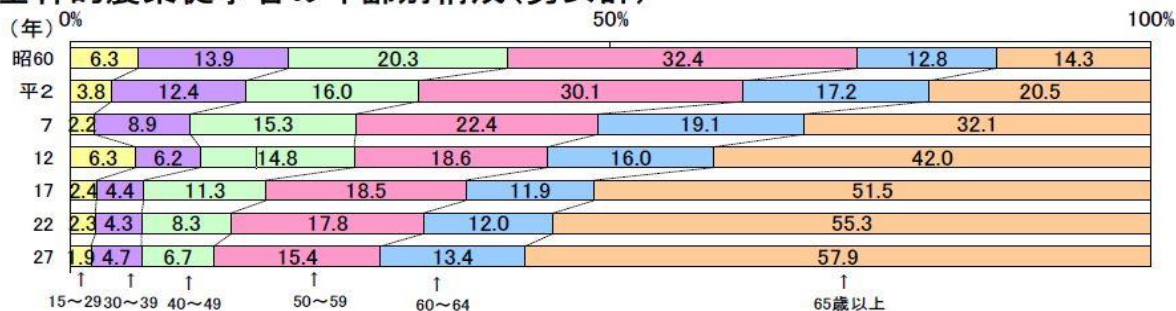
3 私たちが今、できる活動について

テーマにしたがって本校で取り組んでいる内容について紹介します。

(1) 本県の現状

高齢化社会を迎え、かつ少子化の影響もありますが本県では新規就農者（農業生産法人就職を含む）が毎年 300 人前後で推移しており平成 28 年には 396 名と非常に多く就農しています。しかし、基幹的農業従事者の 5 割以上を 65 歳以上が占めており、高齢化の波は常に押し寄せています。

基幹的農業従事者の年齢別構成(男女計)



資料：宮崎県農政水産部（統計でみる宮崎県の農業 2017）より

(2) テーマについて本校での取り組み

宮崎を元気にしたい！農業高校生の私たちが農業の魅力を伝え、小さな子ども達も楽しいと思える活動に取り組んでいきたい。との思いから、様々な企画・運営をおこなっています。代表的な活動について報告します。

① J A みんなのよい食応援隊活動

J A 宮崎中央会と食育について興味関心がある企業・学校が一緒になって活動しているのが「J A みんなのよい食応援隊」です。本校は活動開始当初よりこの活動に参加しており、主催者側として本校にて体験学習や講義などを行っています。

今年度の取り組みとして、地元で栽培されていたが十分な普及が出来ておらず、知られていない野菜を参加者みんなで作って食べてみよう！というテーマで企画・運営する事にしました。

その野菜は「コールラビ」です。コールラビ通信を作り、参加者に配布。播種も行い、学校で作っておいた苗を定植。家庭でも栽培してもらうために袋野菜の栽培方法も伝えています。



みなさん「コールラビ」が宮崎市清武町の特産であることを知らない様子で、どんな野菜なのか興味が高かったです。11月には、できたコールラビを使つての調理も行うため「頑張つて育てるわ」など意欲も高くなりました。学校はホームページで随時、畑の様子などを発信し、参加者との交流も続けていく予定です。

この企画の参加者は、応援隊に参加している企業の方々やその家族です。小さな子ども達も多く参加してくれて、笑顔いっぱいに取り組んでくれています。また、子ども達が参加して楽しかったと思えるように、手作りアイスやブドウの収穫体験など工夫をしています。



企業の方々やその家族に農業って楽しい！作つてうれしいと思つてもらえる活動にすることで、農業に興味・関心を持ってもらう事につながり、食の大切さや宮崎の農産物について理解が深まっていくと考えています。

体験した方や小さな子ども達が将来、農業をやつてみたいと思える一粒の種をこれからも蒔いていけるように継続して取り組んでいきます。

②「いっちゃんが宮崎楠並木朝市」を高校生がプロデュース

本校生産流通科では、10年前に始まつた宮崎県庁前で開催されている「いっちゃんが宮崎楠並木朝市」に学校生産物販売店舗を出店しており、また朝市に出店している店舗での販売体験実習をおこなっています。始まつた当初は毎回約5,000人もの来客数がありましたが、徐々に減少し現在では平均3,500人程度になっています。



毎回、私たちの実習を受け入れてくださっている朝市に恩返しと地域の活性化を目指して、農業高校生ができる事をテーマに「プロデュース朝市」を始めました。

朝市事業主体は宮崎市商店街振興組合連合会ですが、宮崎市を中心に様々な企業・団体がボランティアスタッフを募つて運営しています。プロデュース朝市を実施するにあたり、多くの方々にサポートしていただきました。

今回のプロデュース朝市は農業高校生の視点で取り組める活動にするべく2つの柱を設け運営を行いました。

- i) 授業や実習で学んでいる事を朝市に来られている方々に伝える。(農業教室開催)
- ii) 朝市での販売体験実習を子ども達にも体験してもらう。(子ども職業体験)

農業教室は、「野菜」「草花」「果樹」の3つの教室を開催しました。



小さな子ども連れのお客様や趣味で農作物栽培をしているお年寄りなど様々な方々が質問されたり、私たちの話を聞いてくださったりと貴重な体験をすることができました。

また、参加してくださった方々が笑顔になるところを見て、学校で学んでいることを地域の方々に伝える事ができた喜びを感じ、私たちの自信にもつながりました。

子ども職業体験

職業体験という言葉が堅苦しいので「みやちる」（宮崎農業チルドレン）と名付けて小学生を対象に、朝市出店舗にお願いして職業体験活動をしました。

私たちも小学生と一緒に店舗に入って子ども達をサポート。お店の方々からも非常に好評で、「明るい雰囲気になった」「いつでも体験して良いよ」など、ありがたい言葉をいただきました。

子どもやその保護者からも「またやりたい」「みんなが良い笑顔だった」と好評でした。本校の「宮農ふれあいマーケット」でも販売体験を受け入れ、野菜の販売に取り組んでもらいました。



4 まとめ

私たちは地域に根ざした体験活動に取り組んでいます。高齢化が進む日本の農業において私たちが今できることと考えた時、これまでの活動を継続して取り組み様々な方に参加してもらう事だと考えています。

J Aよい食応援隊では、幼児から大人まで毎回 40 名程度の方が参加して下さっています。笑顔で種を蒔き、定植そして収穫・調理と土に触れ農業の魅力を少しでも感じ、食べる事で食の大切さ・農産物への感謝の気持ちが芽生えてきていると思います。

プロデュース朝市では、農業高校での学びを地域の方々に伝えることで農業に関する理解を深め、また私たちの知識・理解を深めることにつながっています。子ども職業体験を行うことで、小学生が仕事を知ることができ農産物を売ることの喜びなども体験できます。

私たち農業クラブ員が、身近な活動に積極的に取り組み、その内容を情報発信していくことが興味を持っていただけ、課題解決の一つの方法につながっていくと確信しています。日々のプロジェクト活動を通し、地域の課題を解決していけるようこれからも頑張っていきます。